

旭化成、独製薬を買収

1400億円、重症感染症薬を展開

旭化成は26日、重症感

染症向けの医薬品を手がけるドイツのアイキュリス社を買収すると発表した。買収額は約7億8000万円(約1431億円)で2026年4～6

月期中の買収完了を見込む。旭化成は重症感染症のほか免疫、腎疾患、移植と専門領域向けに展開している。既に買収した事業との相乗効果も狙い、医薬品全体の成長に

つなげる。アイキュリス社は免疫不全患者や移植後の患者を主な対象とする製薬企業だ。移植後やがん治療中などは免疫機能が低下し、通常は軽症で収まる感染症も重症化しやすくなる。25年の売上高は約242億円だった。買収後の収益貢献としては28年度に売上高が約300億円、のれん等償却後の営業利益で黒字化

を見込む。30年度には750億円規模に伸びるとみる。今後発売予定の薬や研究開発の強化なども含め「旭化成の医薬事業を持続的に成長させる基盤を整った」(工藤幸四郎社長)とする。24年には腎疾患の「IGA腎症」という難病の治療薬を手がけるスウェーデンの製薬会社カリアデイタスを約1700億円で見込んでいる。足元では買

収当時の想定を上回る勢いで北米での販売が伸びているが、26日の記者会見で工藤社長は「今回の買収はそれ以上の自信があり、我々の戦略にも合致している」と話した。

医薬品は30年度の売上高目標3000億円に向けて27年度までに3つ目のM&A(合併・買収)を目指すと述べて、本買収でめどをつけた。

化学メーカーでは開発費用増大を背景に医薬事業を売却する動きもあるが、旭化成は専門領域に絞ることで治験や営業の費用を抑え成長を狙う。